



情報通信技術と市民社会の変容

(東京大学社会情報研究所教育部冬学期特別講義)

第1回「イントロダクション」2003/09/26

社会情報研究所助教授

田中 秀幸



講義日程

- 期間：
2003年9月26日～2004年1月23日
- 曜日・時間
金曜日 14:40～16:10
- 開催場所
東京大学社会情報研究所、四日市大学



本特別講義の狙い

- 近年のインターネットの爆発的普及やITのユビキタス化を踏まえた、
- これからの市民社会について、
- 社会情報研究所教授・助教授の講義と参加者等とのディスカッションによって、考えていく。

情報通信技術が市民社会に及ぼす影響(1)

- 経済システムの変動によって、公共セクターと民間セクター、国際経済と地域経済などの関係が変化
- パソコンやインターネットの普及で個人の情報行動が変化
- マスメディア領域への個人の参画によるメディア・システムが変化



情報通信技術が市民社会に及ぼす影響(2)

- デジタルネットワーク社会を支える新たな法規範や政策が必要
- 環境、人権や平和などを巡る市民運動のあり方も変化



社会情報研究所とは？(沿革)

- 1929年東京帝国大学文学部新聞研究室
- 1949年東京大学新聞研究所(附置研究所) <マス・コミュニケーションに関する研究・教育が目的>
- 1992年東京大学社会情報研究所に改組 <コミュニケーション一般、ニューメディアやネットワーク、情報に関する社会現象・文化現象全般に研究対象を拡大>
- 2004年に大学院情報学環・学際情報学府と合併予定

社会情報研究所は、3部門により構成

- 情報・メディア

花田達朗、水越伸

- 情報行動

廣井脩、橋元良明、石崎雅人

- 情報・社会

濱田純一、山口いつ子、岡崎毅、須藤修、
田中秀幸、姜尚中、吉見俊哉、北田暁大



社会情報学とは？

- 多様性
- 社会情報学の目的：「情報の視点からする人間社会の社会科学的解明」
「情報や情報現象の社会的文脈の研究を通して、人間社会の構造や運動を明らかにしていく、あるいは、社会が向かうべき方向に対して問題提起を行っていく」
- 学際的なアプローチが求められる

(濱田[1999])



出典:社会情報研究所ホーム・ページ



講義テーマ(1)

(2003年)

- 10月10日 ユビキタスネットワーク社会に向けた情報通信政策[岡崎毅助教授]
- 10月17日 電子自治体を目指す地域社会[須藤修教授]
- 10月24日 情報化社会と人権[濱田純一教授]
- 10月31日 情報通信技術を活用したまちづくり[田中秀幸助教授]



講義テーマ(2)

- 11月7日 メディア・リテラシーをいかに身につけるか[水越伸助教授]
- 11月14日 新しいメディアと市民運動[吉見俊哉教授]
- 11月21日 情報セキュリティを巡って[田中秀幸助教授]
- 11月28日 インターネットによって変容する個人の情報行動[橋元良明教授]



講義テーマ(3)

- 12月5日 コミュニケーションとインターネット[石崎雅人助教授]
 - 12月12日 サイバー空間の表現の自由[山口いつ子助教授]
- (2004年)
- 1月9日 ネット世論とナショナリズム[北田暁大助教授]
 - 1月16日 グローバリズムと情報ネットワーク[姜尚中教授]



公開シンポジウムのお知らせ

- 「デジタル市民社会と社会情報学」
- 2003年10月3日(金)、4日(土)
- 東京大学弥生講堂・一条ホール
- 主催：社会情報研究所、共催：ソウル大学
言論情報研究所
- 社会情報研究所教授・助教授に加えて、
西垣通教授、坂村健教授、米本昌平所長
等が登壇



公開シンポジウム(プログラム)

10月3日(金)午後

- 第一部「社会情報学の系譜と課題」

10月4日(土)午前・午後

- 第二部「デジタル市民社会を考える」

セッション1「情報ネットワークが変える国家論」

セッション2「NPOと情報ネットワーク社会」

セッション3「サイバースペースの変容と課題」



参考文献・サイト

- 北川高嗣ほか編[2002] 『情報学事典』, 東京:弘文堂.
- 東京大学社会情報研究所[1999a] 『社会情報学 I システム』, 東京:東京大学出版会.
- ー[1999b] 『社会情報学 II メディア』, 東京:東京大学出版会.
- ー[2001] 『日本人の情報行動2000』, 東京:東京大学出版会.
- 花田達朗 = 廣井脩編[2003] 『論争 いま、ジャーナリスト教育』, 東京:東京大学出版会.
- 社会情報研究所ホーム・ページ <http://www.isics.u-tokyo.ac.jp/>